

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800174		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケアグループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	令和6年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的ケアはもちろんの事、グループホームという家庭的で自由に生活できるように支援を行っている。
ご家族様との関係も良好で、情報交換しながら家族共に支援を行う体制が出来ている。
家族と疎遠にならない様に、毎月の様子をお便りとして郵送、イベント時の写真を送るなど情報を発信している。
感染の対策として、基本的なスタンダードプリコーションの実施。
看護師が常駐しているので入居者様の日々の健康管理・感染症対策研修なども充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ヒューマンライフケアグループホーム市川」は閑静な住宅街の中にあり、地域の一員として地元へ根ざした施設運営を目指しており、地域と交流する機会が多い。日頃から、食事の準備・掃除・洗濯等の日常の動作を生活リハビリの機会として捉えており、自立した生活を支援している。内科の往診がほぼ毎日行われていると共に、月3回歯科医による往診が行われており、手厚い医療支援がなされている。また、往診の医療機関とは24時間体制で連携を図っている。その他にも、施設に常勤の看護師が配置されており、入居者の状態変化に応じた迅速な対応が、入居者や家族の安心に繋がっている。現在、コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、以前の生活に戻っていない為、外出や交流活動は見合わせている。しかし、屋上のテラスや移動スーパーの活用に加え、体操や行事等の充実に取り組み等、入居者の生活活性化に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、念頭に置きながら入居者が安心して自由な生活を送る事が出来るよう支援にあたっている。	「人生の先輩に謙虚な姿勢で臨みます。笑いの絶えない伸び伸びの輪。地域の触れいを大切にします。お話を聞くのが大好きです。季節の移り変わりを大切にします。」という施設理念を掲げていると共に、法人理念・施設理念・運営方針等を施設内に掲示しており、内・外の人達へ周知している。会議や内部研修、ミーティング等で理念について取り上げ振り返りや確認を行っており、意識統一を図っている。また、日々のサービス提供場面においても理念を意識したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの流行により、面会、慰問、ボランティア活動は感染対策で中止となっていたが、5類に行こうされ、家族の面会、慰問など限られてはいるが少しずつ行えるようになってきている。	散歩時の挨拶や町内会の加入を通して、地域とは良好な関係を築いている。週1回、地域の移動スーパーの活用を通して、近隣住民と触れ合う機会を大切にしている。現在、コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状況に戻っていない為、地域行事への参加には控えている。地域との交流については、今後徐々に増やしていけるよう、対策を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習など依頼があれば例年受けているが、コロナ禍になってからは具体的な相談はなく、実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、現状報告や取り組んだ内容の報告を行っている。会議の内容、結果は職員に周知し、改善に向けての話し合いは行っている。	地域包括支援センター職員・家族等を構成員として2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。来年度から、自治会長に参加を依頼する等、地域の理解や支援が得られるよう、地域住民への働きかけを予定している。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問点や指導を仰ぐ事例に対しては、主に施設長が窓口担当者に関わりを持ち、課題解決に努めています。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、市と関わる機会を通して、交流及び連携を図っている。日常の連絡は、電話・メール・FAX等で行われており、関係部署と情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル、研修に参加し、身体拘束をしないケアは十分に理解しており、入居者の言動、行動を制御しない声かけに勤めている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルが整備されており、施設内に掲示している。また、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の無いケアの実践を目指している。その他にも、虐待及び身体拘束チェックシートによる意識確認を行い、高齢者の権利擁護や身体拘束の理解徹底や遵守に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染予防の為、人が集まる研修が少ない為、オンラインで行われている研修に参加し、参加できなかった職員には資料を配布している。また、日頃から虐待につながらないように、職員間で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する方はなく必要としていないが、マニュアルを作成し、いつでも見れるように整え、必要時には活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談や申し込みがあった時点でGHの概要、しくみ、料金など説明させて頂き、ご家族の不安など解消し、よく理解された上で契約をしている。又、料金や内容の改定があった際には、変更内容の説明をさせて頂き了承を得ている。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には常日頃より意見を聞くように努め、家族には面会時に利用者の状況を報告、意見や要望をお伺いし職員間で話し合い解決へと努めている。	面会や電話連絡・運営推進会議を通して、家族から意見・要望等を確認している。また、手紙や市川便りで日々の状況を伝えており、信頼関係構築に努めている。挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。今年度はコロナが5類に移行し、感染対策の緩和に伴い、ファミリールームや居室での面会が可能となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のフロア会議にて意見交換する場を設けている。また、申し送りやカンファレンスの実施にて随時、意見交換できる環境にある。提案の際は反映できるように努めている	定期的に会議やカンファレンスを開催しており、全職員から意見・提案等を確認している。また、日頃から管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望を言い易いような職場環境作りを目指している。挙げた意見・要望・情報については、会議で検討しケアに反映させている。その他にも、法人職員による個別面談も行われており、法人へ現場職員の声が届く仕組みが整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事の成果や目標達成の評価など人事考課に適正に反映しています。有給休暇の取得は希望を添うように配慮している。職員のシフト作成は希望や諸事情を反映して作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のマイスター制度・内部研修の充実。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、オンライン研修を通して各施設との意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には本人と面談し、アセスメントを行っている。本人の不安事、要望に応え、安心して生活出来るような支援を事前に考えた上で利用して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族と面談し、ご家族が何を求め、何に困っているのかを把握し話し合い、意向にそえるようなケアを事前に考え、お話しし了解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切に、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族希望により、いきつけの美容院へ外出している。コロナ禍になってからは最低限の外出に控え、面会も緩和し時間制限などは設けていない。	日頃から、家族との面会や手紙・電話のやり取り等を支援していると共に、ラインのビデオ機能を活用しオンライン面会を行う等、家族関係継続に取り組んでいる。コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状況に戻っていない為、地域との交流は控えている。但し、入居者や家族の要望にはできる限り対応しており、行きつけの美容院の利用や墓参り等、入居者一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これまでの生活歴、性格、利用者同士の関係等の把握に努め、配席の工夫、適時職員が間に入るなど、利用者同士の交流を各ユニットを往来し、個性を活かした食器拭き、裁縫、壁紙飾り作り、メモ用紙作り等役割を持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人宛の郵便物の返送、電話連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情、今までの関わりの中での経験から思いや意向を把握している。「暮らしの情報」に興味や嗜好などを具体的に記入して定期的に情報を更新している。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も意向や思い・身体状況等の把握に努めており、会議等で検討や確認を行い、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、入居後も家族からお話を聞きながら把握出来るように努めている。情報シートを渡し、今までの生活の様子を記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、生きがいのある生活を送って頂けるように、その人の出来る事に目を向けて役割ある生活を送って頂き、健康状態良好で過ごして頂けるように努めている。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回の介護計画書の見直しの際にはモニタリングを実施し、現状と照らし合わせを行い、課題がないか話し合いを行っている。日常においても都度、アセスメントを行い本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に合った介護計画書を作成している。	本人や家族の意向や記録を基に、計画作成担当者が原案を作成し、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。実施状況や介護計画の見直しについて、日々の記録・気づき・工夫等を活用しながら検討を行い、新しい情報の確認や共有に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のご様子を様々な記録に記入し、職員間での情報共有を図っています。また、問題点は速やかに対応方法などを検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族の意向を聞き、ご利用者様の状況を判断して会議などで議題に挙げて支援している。日々の変化を感じ取りその時に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、施設駐車場の訪問販売が訪問地域資源として活用している。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、協力医療機関の医師が往診している。往診状況は個別の生活記録に記入し、受診状況は記録に残している。	提携病院の他、希望のかかりつけ医へ受診が可能となっている。必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。また、月2回内科医による往診や月3回歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援がなされている。また、提携病院とは、緊急時・急変時には24時間体制で協力が得られるよう連携を図っており、状態変化に応じて迅速かつ適切に支援に向け、体制を整えている。その他にも、常勤の看護師が配置されており、健康管理・服薬管理・医療面おける相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務している。日々、健康管理の徹底。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を渡し、ソーシャルワーカーや看護師との連絡を取り、早期退院、心身機能の低下を防ぐよう情報を共有し連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」に沿って事業所の方針を説明し、「事前指定書」で意向を確認している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所の方針を話し合い可能な限りの支援を行っている。状況に応じて、看取り研修を行うこともある。	重度化・終末期における施設指針や同意書を作成しており、入居者・家族へ説明し、同意も得ている。重度化・終末期においては、入居者や家族の意向確認を行い、全職員は安心で納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から医療面においては提携病院の医師と連携を図っており、その時々状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については都度、見える所(居間、事務所)にマニュアルを掲示している。応急手当については研修会などで実践を踏まえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者・職員が参加して避難・救出訓練を年に2回と地震の訓練を実施しています。水、食料品、充電器などの防災グッズを備蓄し、リスト化して半年に1回保管期間などの確認をしています	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、災害時の備蓄品も確保している。年2回自主消防避難訓練を実施しており、日中及夜間想定訓練・地震想定・通報訓練・消火器訓練等を通して、対応方法を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの主体性を大切に考え、その方に合わせた言葉かけや対応を行い、入居者の誇り、プライバシーを損ねないように配慮している。	プライバシー保護・接遇・個人情報保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されており、職員の意識向上を図っている。接遇においては、個人尊重を意識した言葉使いや対応を心掛け、日常的な確認・改善・指導を行っている。個人情報の扱いについては、個人ファイルの取扱い目的・保管場所・写真掲載の承認等、個人情報に配慮した対応に努めている。また、研修や会議等で重要性や制度の理解浸透に努め、秘密保持の徹底・情報漏洩防止に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちやペースを大切にし、入居者が遠慮なく希望が言いやすい環境を作っている。選択が出来るような配慮や問いかけをし、自己決定して頂けるように心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズム、ペースに合わせて、その人の要望に沿って支援している。就寝や起床なども規制がなく、本人の気持ちに配慮した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては本人の希望に合わせて実施して頂けている。日々の着る服や身だしなみも本人と相談しながら行っている。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立があり、食材業者からほぼ毎日食材が届きいている。 常食・やわらか食・ムース食があり、その方にあった食事を提供している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、やわらか食やムース食を導入し、食べやすさや見た目に配慮している。その他、季節に合わせた行事食等も取り入れており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量共に1日の摂取量を記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施を促し、就寝時には義歯を預かり消毒し、清潔を維持出来るよう支援している。また、希望者、異変がある場合には歯科往診して頂き、口腔状態を確認して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を基に日中はトイレを使用し、介助が必要な場合もできる面を促し自立に向けている。夜間は誘導や排泄用品の工夫で睡眠を妨げないよう利用者に合わせて支援している	個々の排泄チェックリストを活用して、一人ひとりの排泄状況及びパターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。必要に応じて、夜間はポータブルトイレを使用する等、適切な対応を行っている。また、水分チェック表の活用や看護職員と連携し、適切な排泄習慣の確保にも努めている。必要時に医師や看護師に随時相談をしながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、乳製品、服薬、食事などにて、その人に合った対応をしています。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	平日を中心に一人週2回行い、シャワー浴希望の時は回数が多いこともある。入浴を拒む方には時間帯の変更や言葉かけの工夫で入浴につなげている。湯加減を調整しながら全員が浴槽に浸かり、職員と会話をしたり歌をうたい楽しんでいる。	入浴においては入浴日が決まっているが、一人ひとりの希望や体調等に応じて柔軟に支援をしている。また、必要に応じて、シャワー浴・足浴・清拭等を実施し、清潔保持に努めている。入居者の身体状況に応じて介助方法等を工夫し、一人ひとりに合わせた入浴支援を行うと共に、全職員にて情報の共有を図り、入居者の状況・希望等に即したケアの統一に努めている。季節の果実や草花及び入浴剤を活用し、くつろいだ気分で入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣や体調に合わせて休息して頂いている。また、夜間は就寝時間を決めず、その人の習慣を尊重し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的と副作用、用法、用量に関して全員が理解出来るように努め、症状の変化があった場合にはかかりつけ医に相談、指示を仰ぎ、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの力に合わせた役割を設け、その人に合わせた楽しみ事を提供出来るよう日々努め、支援している。また、月に1～2回行事も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て敷地内を散歩、車椅子の利用者も日光浴などを行う。毎週施設敷地内に訪問販売が来るため気分転換のためにも利用頂いている。	日頃から散歩を通して、地域の人達と触れ合う機会を設けている。また、週1回地域の移動スーパーを活用して、買い物の楽しみを支援している。コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状況に戻っていない為、外出や地域との交流活動には慎重ではあるが、外出支援の代替え策として、施設内のレクリエーションや体操等の充実化により、入居者の気分転換や生活活性化を図っている。また、屋上での日光浴やティータイムは入居者の憩いのひと時となっている。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方から預かったときは、出納張に記入している。施設駐車場に移動販売が訪問された際は、お金をお渡しし、ご自身でお支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙のやり取りや知人との手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は温度、湿度に注意し、明るく落ち着けるようにしている。季節ごとの創作物や写真などを掲示し、季節を感じながら居心地よく生活が出来るように工夫している。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。現在、共同生活室や廊下などLEDへの交換を進めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではそれぞれ寛げる場所があり、また、ソファや食卓テーブルの配置などにも考慮し、設置している。それぞれの思いに合った場所を提供出来るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が使い慣れた物を持参して頂き、配置している。安全な動線の確保も行い、1人ひとりが個性のある居室となっている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室には、鍵や収納が設置されており、個々のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが出来る事、わかる事を生かして生活して行けるよう支援し、実施する事で自立した喜びを感じて頂けるようにしている。手すりの工夫や椅子の設置場所等も検討し配慮している。		